

多職種連携教育 Letter

国際地域学部生 × 教育学部生 敦賀で情報術を学ぶ

本学では、多職種連携教育を「職種の違いを超えて包括的に課題に対処できる資質・能力を培う教育」と定義、推進しています。この取り組みとして、7月5日（金）、国際地域学部授業「課題探究プロジェクトⅢA」（指導教員；田中志敬、江川誠一、嘉瀬井恵子）を履修する国際地域学部生（2名）と、教育学部授業「学校体験学習」（指導教員：岸俊行、嶺南地域課題解決プロジェクト：嘉瀬井恵子）を履修する教育学部生（7名）が合同で、敦賀市知育・啓発施設「ちえなみき」にて情報術を学びました。

このような学部を越えた多職種連携教育は、今年度、嶺南地域では2回めの実施となります。



丸善雄松堂（東京）から講師を迎え、世の中にあふれる情報を収集、整理、イメージする術を学びました。講師の指導を受けながら、情報同士を関連づける情報収集術、選んだ本の目次からイメージを膨らませる連想術、情報を取りに行く本の読み方に取り組みました。その後、両学部生が混合したチームに分かれてワークを行いました。



敦賀市知育・啓発施設「ちえなみき」でワークショップ



ちえなみき「共読知」コーナーでは、学生が選んだ本と、そのキャッチコピーを付けたPOPを展示中

ワークショップでは、互いに店内で選んだ本同士の間に関係性を結び、連想を広げる練習を行いました。西川真央さん（教育学部3年）は「国際地域学部生は、選んだ本に対して広い視点から目を向けているなど感じました。でも、とても共感するところがありました」と言います。平野愛実さん（国際地域学部3年）は「教育学部生とは、情報の収集も、関係づけも演出の仕方も考え方は同じで安心しました」、綿貫陽介さん（国際地域学部3年）は「他学部生と一緒に考えるのは楽しかったです。考えをもっと聞きたかったです」との感想を寄せています。

編集後記

複雑さや不確実性が増しつつある現代においては、豊かな発想やイメージーションを膨らませることが、こと、若い学生には重要になってきます。そこで、異なる専門を学ぶ学生同士が、同じ課題と向き合うことで、従来のモノの見方の中にも自由な発想と、一方で、互いに理解し合う力を養うことを狙いとして、ワークショップを設定しました。学年や学部を乗り越えて、互いに諒解し合う関係性をおおいに楽しみ、また、「知」を育んだようです。

【編集・発行】嘉瀬井恵子（福井大学地域創生推進本部附属嶺南地域共創センター）

【問合せ先】福井県敦賀市鉄輪町1-3-33 0770-48-0964 kasei@u-fukui.ac.jp

本活動は、福井大学地域創生推進本部附属嶺南地域共創センターの福井県嶺南地域における課題解決事業・プロジェクト（研究代表：嘉瀬井恵子）に対する支援を受けて実施している